

●昭和53年 7月20日印刷

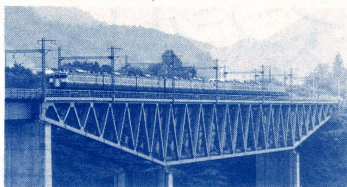
●昭和53年 9月 1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／宮原正和
日比 彰／沖 勝則／三浦 衛

1978・9 NO.139 Vol.12 NO.9



●アートディレクト 唯野信廣

●発行所

(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6
日産ビル 電話03(264)1891・1892
振替口座 東京 9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社

運賃法定制が緩和されて初めての国鉄運賃値上げが 7月8日から実施された。だが国鉄の長年の悲願であった運賃自主改訂も 飛行機・私鉄・トラックなど競争交通機関とのかね合いから値上げ率を切りつめざるを得ず 政治的配慮も加わって通学定期の値上げ率が大幅に押えられたうえ 来年1月にかけ三段階にわけて実施されることになった。一方 昨年末には日本国有鉄道法が改正され 国鉄も民鉄なみに副業に手を出せるようになり 赤字解消への一つの道が開かれた。激しい時代の流れが国鉄のまわりに渦を巻き 明暗の話題が錯綜している。この激動の変革期をいかに乗り切って再建への基礎をきずいてゆく

か？ 国鉄にとって今こそ「正念場」というべきであろう。
「基礎固め」といえば 鉄道という陸上交通機関で最も大切なのは鉄の道——線路とそれを取り巻く各種の施設だ。鉄道創業以来 鉄道の鉄道たるゆえんである線路から 近代的な電気設備 さらには時代の先端をゆくコンピューターまで 列車を速く安全・快適に走らせるための「裏方」さんを忘れてはならない。民間企業にくらべて能率の低さや非採算性を指摘批判されながらも やはり国鉄が社会から見放されていないのも 眼に見えない「安全」への信頼によるところが大きいと思う。この信頼に今後いっそうこたえてほしいものである。

シリーズ・日本の鉄道⑨ さっぽろ

小熊米雄
青木栄一

7

●特集 「鉄道施設」大百科

軌の構図	26
東京府 鉄橋・トンネル・駅舎の旅	編集部 32
津軽海峡に挑む青函トンネル	種村直樹／沖 勝則 48
鉄道トンネル アラカルト	編集部 53
五日市線「多摩川橋梁」が生まれかわった日	八木邦英／塚本雅啓 55
鉄道橋梁 アラカルト	畠山隆雄 60
新・R Jメカニズム9 トラス橋	62
旅客駅の変遷	幸 園夫 64
ドキュメント「追跡」★	
新幹線半日運休を追う	種村直樹／沖 勝則 69

電車特急のトレインマークが図案入りに！ 須田 寛 76

53年10月ダイヤ改正の概要 編集部 78

★レールウェイ・トピックス

東海道すじの新しいブルー・トレイン牽引機 EF65形1000番台 25

貨物輸送の大幅縮小 85

紀勢本線電化完成 練習運転始まる 山村定雄 86

小山試験線 いよいよ試験開始 88

銀座に鉾山用機関車が出現 89

ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き) 81

トップ・アングル 90

鉄道車両「系列」シリーズ⑨

近畿日本鉄道 特急用電車 永野晴樹 94

★RAIL 人生②

関沢新一さんの世界 103

★シリーズ・現場③

送る——車掌 永崎祐之 108

ポスターと書物のドラマ⑨ 佐々木桔梗 110

レールウェイ・レビュー 113

かいがいてつどう イントロダクション 本島三良 120

「急行列車」再発見③ 道南の客車急行<ニセコ> 123

今月の撮影地③ 道央の近代車両を追う 北野陽一 126

旅行案内記 よもやま話① 沢 和哉 129

タブレット 139

次号予告／ジャーナル編集室／乗務員室 142

表紙★210キロのメカニズム 新幹線への風あたりは強いが スピードは交通機関の宿命的な使命であり 故障や公害問題など試練に耐えながら 新幹線はきょうも日本の大動脈を走りつづけている。車両・運転から施設まで総合的な技術の結集である鉄道のなかでも 新幹線はその最たるものだ (富士川橋梁で カメラ・竹島紀元)

定価580円 760円